

学校評価に係るアンケート

【判定】（市の基準）
A：肯定率の平均が90％以上
B：肯定率の平均が60％以上90％未満
C：肯定率の平均が60％未満

4：できている（とてもそう思う）
3：だいたいできている（やや思う）
2：あまりできていない（あまり思わない）
1：できていない（まったく思わない）

※肯定率は評価4・3の合計（児童、保護者、教職員 93%以上… 85%未満…

評価領域	評価指標・質問	対象	R6		R7		評価（％）				教職員による自己評価・考察 ○成果 ◆課題と対策
			判定	肯定率	判定	肯定率	4	3	2	1	
教育課程 学習指導	教師は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	教職員	A	94	A	95	53	42	0	5	○松山の授業モデルに沿った授業づくりをしてきたことで、児童や保護者の肯定率の向上が見られた。 ○書くことが苦手な児童にとっては、タブレット学習は非常に有効であった。 ◆アナログとデジタルのそれぞれのよさを生かした授業改善の項目は昨年比で微減となったが、依然として高い数値を維持している。 減少の要因として考えられるのが、ICT活用自体はほぼ全教員に定着したものの、次の段階として場面に応じた最適な使い分けが問われるようになり、教員個々の自己評価基準が高くなったと考えられる。 ◆ICT活用が日常化した今こそ、改めて「紙の教育的効果」を見直す時期にある。特に、思考の整理や定着におけるアナログの有用性について、紙媒体で授業を行ってきたベテランの先生のノウハウを若手層と共有し、双方の良さを生かした「質の高いハイブリッドな授業」を目指す。 ◆保護者の「学習面の基礎・基本」についての肯定率がやや低かった。タブドリやエイリス等の活用を充実することで、基礎・基本の定着に努めたい。
	教師は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	教職員	A	100	A	95	74	21	5	0	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	教職員	A	94	A	100	63	37	0	0	
	授業の内容がよく分かりますか。	児童	A	94	A	95	59	36	4	1	
	タブレットを使うことで、学習がよく分かり楽しくなりましたか。	児童	A	96	A	96	79	17	3	1	
	学校は、タブレット端末などICT機器のよさを適切に生かしながら、授業に取り組んでいる。	保護者	A	90	A	90	39	51	9	1	
	お子様は、学習面での基礎・基本が身に付いている。	保護者	B	81	B	83	27	56	15	2	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童の育成に努めている。	保護者	A	94	A	96	46	50	4	1	
	教師は、児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	教職員	A	100	A	100	53	47	0	0	
	ふだんの授業で、自分の考えが発表できていますか。	児童	B	85	B	77	43	34	18	5	
	進んで学校や家での学習に取り組んでいますか。	児童	A	92	A	92	58	34	7	1	
	読書に熱心に取り組んでいますか。	児童	B	82	B	86	50	36	10	4	
	外で元気に遊んだり、体を動かしたりすることに、進んで取り組んでいますか。	児童	B	86	B	89	63	26	9	2	
	お子様は、学習に意欲的に取り組んでいる。	保護者	B	79	B	81	34	47	18	1	
	お子様は、進んで運動に取り組んでいる。	保護者	B	80	B	80	44	36	18	1	
人権・ 同和教育、 生徒指導	教師は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	教職員	A	100	A	100	79	21	0	0	○道徳科を軸に起きながら、日々の生活の中で、児童の人権意識を育てていけるように努める。児童は、周囲の環境から差別やいじめが許されるものではないという認識を持つことができている。 ○心通う学級経営、学年経営に努め、誰もが安心して学校生活を送れるように今後も継続して指導を行う。 ◆「差別やいじめを許さない気持ちをもっていますか」の肯定率が92%である・この数値は100%を目指すものと考えている。
	差別やいじめを許さない気持ちを強く持っていますか。	児童	A	94	A	92	69	23	6	2	
	友達が困っているときに、進んで助けることができていますか。	児童	A	93	A	93	64	29	6	1	
	学校は、いじめや差別を許さない意識や態度の育成に向けて努力している。	保護者	B	86	A	90	33	57	8	1	
	学校は、異年齢が関わる活動をよく実施し子どもたちの成長に役立っている。	保護者	A	97	A	97	49	48	3	0	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導を行っている。	教職員	A	100	A	100	63	37	0	0	
	明るいあいさつができていますか。	児童	B	84	B	87	49	38	11	2	
	あなたは、学校や学級のきまりを守れていますか。	児童	A	96	A	90	57	33	8	2	
	学校や学級での生活が楽しいですか。	児童	A	95	A	96	75	21	3	1	
	悩みごとや困ったことがあるときには、先生に相談できていますか。	児童	B	80	B	79	43	36	17	5	
	友達や先生の話を最後までしっかり聞いていますか。	児童	A	90	B	88	58	30	11	1	
	先生は、いけないことをしたときには、しかってくれますか。	児童	A	96	A	94	80	14	3	3	
	お子様は、安心して学校に通い、楽しい学校生活が送れている。	保護者	A	94	A	97	61	36	3	1	
	お子様は、友達や先生、地域の方々に明るい挨拶ができています。	保護者	B	87	B	87	29	58	11	1	
キャリア 教育	教師は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	教職員	B	89	A	95	21	74	0	5	○各学年、子どもたちが様々な対象との出会いをとおして、自分自身を見つめることができるように教育活動を工夫して実施している。また、教職員が、「どのような力を育てたいのか」を明確にして様々な活動を実施していることが、キャリア教育の推進につながっている。 ◆学年だより等で、活動の様子やねらいを伝えることで、キャリア教育への理解促進を図る。
	夢やめあてに向かって努力を続けていますか。	児童	A	93	A	93	67	26	5	2	
	お子様は、夢やめあてを持ち、その実現のために努力を続けている。	保護者	B	69	B	67	25	42	28	4	
安全管理	教師は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに安全な環境づくりに努めている。	教職員	A	100	A	100	63	37	0	0	○交通安全については、適宜、生徒指導主事が呼び掛けたり、PTAの朝の見守り当番報告書等を基に教職員で情報共有して指導に当たったりするなど、迅速かつ丁寧な指導を行うことができている。
	学校は、交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	保護者	A	93	A	95	53	42	4	0	
保健管理	教師は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康保持・増進に努めている。	教職員	A	100	A	100	68	32	0	0	○ 夏季休業中、冬季休業中に、1週間程度「早寝早起き朝ごはんチャレンジ」を設定し、起きる目標時刻、寝る目標時刻を設定してチャレンジしている。児童とお家の方からの感想の中には「子どもが朝は自分で起きることをがんばった」「家族で取り組んだ」というものもあり、意識して取り組んでいる様子がうかがえた。 ◆ 特に、早寝ができていないと感じているのではないかと考える。塾や習い事で帰宅する時間が遅くなったり、家庭の事情で就寝時刻が遅くなってしまうこともあるだろうが、ゲームやYouTubeを見ていて遅くなっている児童もいるため、家庭でのルール作りや個別の声掛けを続けていく必要がある。
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	教職員	A	100	A	100	79	21	0	0	
	「早寝・早起き・朝ご飯」ができていますか。	児童	B	83	B	84	50	34	12	4	
	お子様は、「早寝・早起き・朝ご飯」ができています。	保護者	B	74	B	80	37	43	18	2	
特別支援 教育	学校は、換気や手指衛生などの、基本的な感染症対策を適切に行うなど、安全・安心な学校づくりに努めている。	保護者	A	95	A	96	43	53	4	0	○学級担任は、様々な個性を持つ児童一人一人の実態を把握し、保護者の皆様と情報を共有して、個別の支援計画を作成し、よりよい学校生活を送ることができるよう努めている。 ◆一人一人のよさが引き出せるよう、学級担任、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主事、管理職、関係諸機関と今後も連携を密に図る。
	教師は、特別支援教育の視点を持って取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	教職員	A	94	A	95	58	37	0	5	
	学校は、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた支援や指導を行っている。	保護者	A	93	B	84	35	49	14	2	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	教職員	B	88	A	100	68	32	0	0	○教務主任を中心に、学年主任や各教科等の主任が、それぞれの立場で学校全体のことを考えた建設的な意見を出し合い、組織的な対応に努めることができている。
	学校は、管理職や学年主任等を中心にチームで対応してくれている。	保護者	A	90	A	92	40	52	6	2	
研修	教師は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	教職員	A	94	A	95	63	32	5	0	○研修主任を中心に、chromeブック導入の際、AI生成の研修、動画作成アプリCanvaの研修など、実効性のある研修を計画的に行うことができた。
保護者・ 地域との 連携 ・ 情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて、地域や保護者と連携・協力している。	教職員	A	100	A	100	68	32	0	0	○縦割り班活動が充実しているため、上学年が下学年をしっかりとお世話する優しい心が伝統的に根付いている。 ○公民館やPTAとの連携により、地域の方の支援を得ながら、充実した活動を行うことができた。 ○校報しのため、学年だより等で学校や子どもたちの様子を伝えることができた。 ◆地域の公民館等が行う活動については、チラシを掲示し、参加するよう啓発に努めている。今後も継続して行いたい。
	お子様は、地域の行事に積極的に参加している。	保護者	C	59	C	58	16	42	31	11	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	教職員	A	94	B	85	53	32	10	5	
	学校は、校報しのためや学年だより、ホームページなどで、学校や子どもたちの様子をよく伝えている。	保護者	A	99	A	98	57	41	3	0	
教育環境	教師は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	教職員	A	95	A	95	48	47	0	5	○「聴き方名人になろう」により、よい聴き方・話し方を全校で共通理解しながら取り組んだことは、言語環境の充実にもつながった。
	学校は言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	保護者	A	95	A	95	40	55	5	0	
幼保小 中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	教職員	A	95	A	95	48	47	0	5	○東中校区（東中・番町小・東雲小・八坂小）の四校連携で行う授業等を今後も継続していくことで、児童の学びの接続をスムーズに行っていくきたい。情報交換を密にし、今後も活発に研修や授業交流を深めていきたい。
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	教職員	B	89	A	95	53	42	5	0	
	学校は、家庭・地域・関係機関（東中・市教育研修センター・愛大・日赤など）と連携して教育活動を充実させ、子どもたちの健全育成に努めている。	保護者	A	90	A	91	41	50	7	2	